

羅臼町

8331 野村 和樹

1.概要

1.1 地名の由来

町名の羅臼はアイヌ語「ラウシ」から転化したものである。

「ラウシ」には獣の骨のある所という意味があり、この一帯はアイヌの狩猟地であった。

1.2 歴史

1901年に標津外6ヶ村戸役場から分離独立、植別村戸長役場が設置され、1930年に羅臼村に改称。1961年の町制施行により羅臼町となる。2004年に中標津町との飛び地合併により東知床市とする協議が行われた。その後、中標津町での住民投票により反対多数となり、合併は断念された。漁業従事世帯が総世帯の3分の1を占める漁業の町である。スケソウダラ、鮭、ウニなどがとれ、羅臼昆布は特に有名。農業は南部で乳用牛が飼育されているが、田畑はほとんどない。町の7割が山林だが、そのほとんどが知床国立公園内の天然林のため、林業も盛んではない。

1.3 地理

北海道東端部、知床半島の南東半を占め、根室海峡に面する。(面積 397.87 北緯 44 度 東経 144 5 度)北に連なる知床連山から多くの河川が流れ込み、中心市街は羅臼川河口周辺。標高 1,660m の羅臼岳がある。目の前に広がる根室海峡の向こうには、北方領土の国後島がほぼ平行に対峙しており、近いところではたったの 25km しか離れていない。

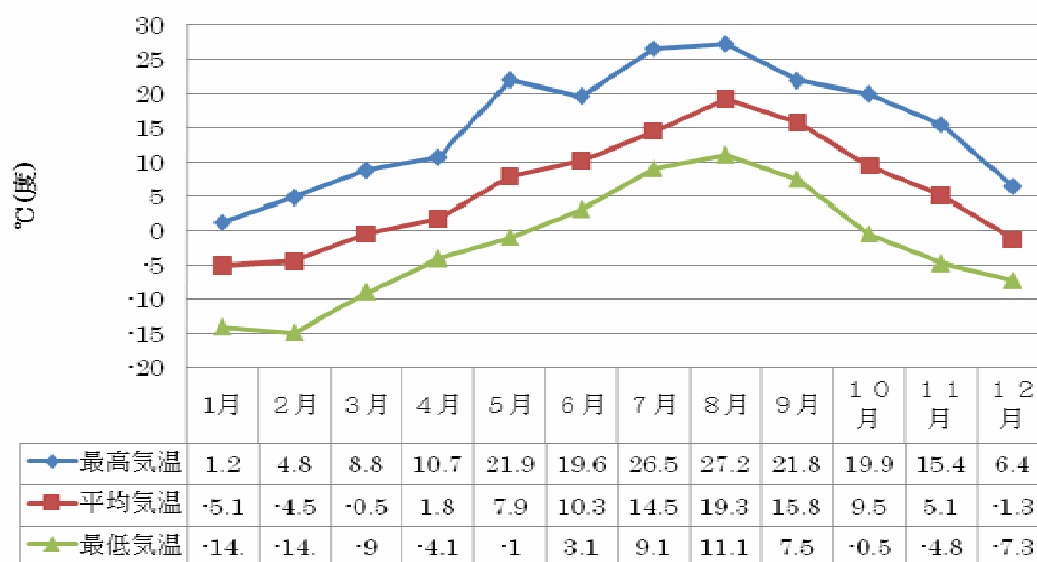
図 1 羅臼町の位置 (黄色の場所)



出典：ウィキペディア

1.4 気候

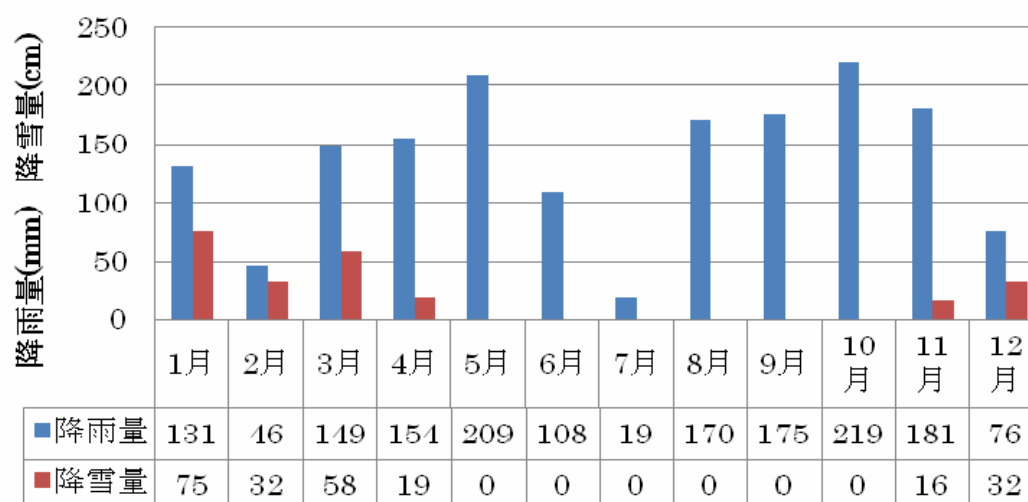
図2 2006年度羅臼町年間気温の推移



資料：19年度 羅臼町資料編

1年を通して平均気温が20以下と、道内でも比較的涼しい気候となっている。最高気温と最低気温の差はおよそ15前後で推移しており、昼夜の寒暖差が大きいのは北海道的であるといえる。1年のうち8ヶ月で氷点下を記録していることも特徴的である。

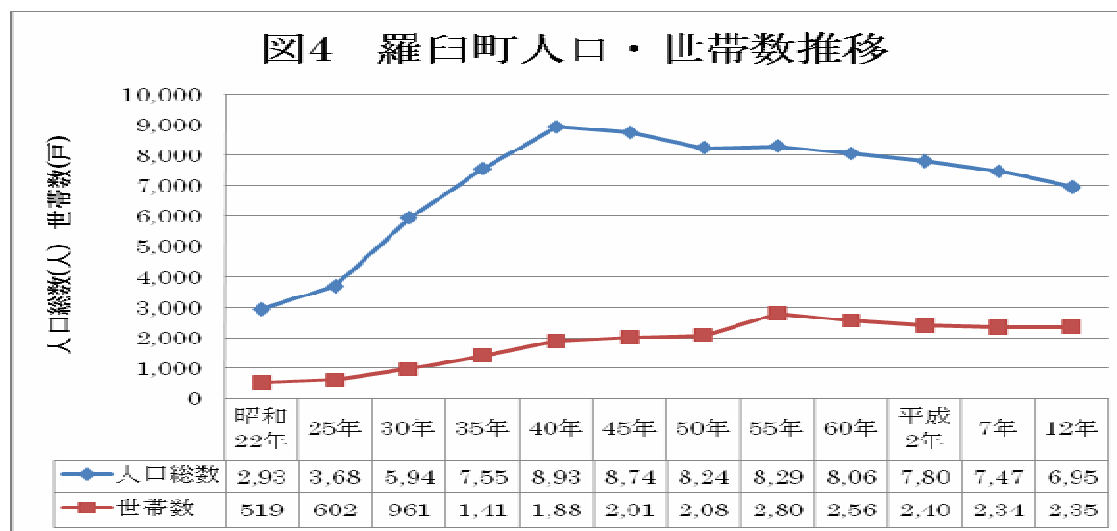
図3 羅臼町2006年度年間降水量



資料：19年度 羅臼町資料編

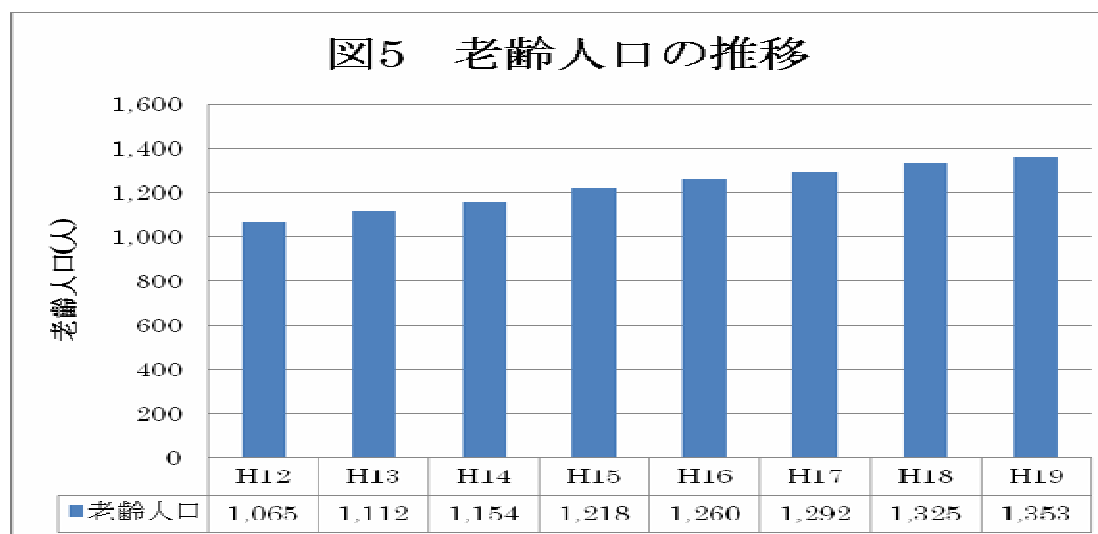
降雨量は北海道には梅雨がないため、5,6,7月が少ない。年間の降雨量は道内でみるとやや多いようである。降雪量は1月がピークとなっているようで、この年の最深積雪はおよそ60cmにもなった。しかしこれは、道内ではそれほど多くはない数値である。

2.人口・世帯数推移



資料：国勢調査データ

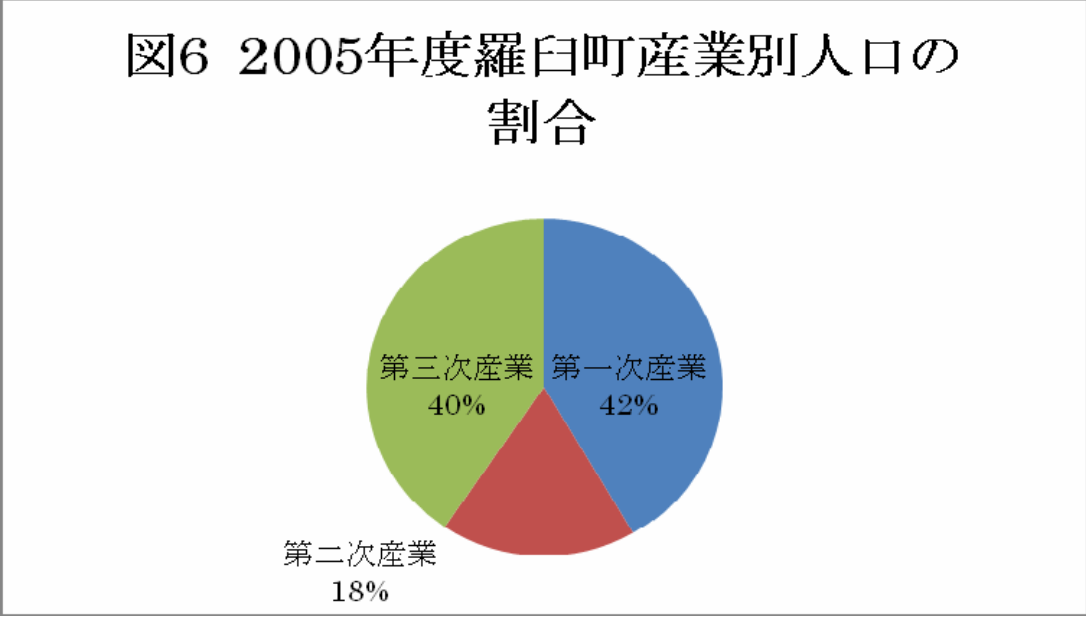
羅臼町の人口が最も多くなったのは昭和40年の8,931人であり、それをピークにして減少傾向にあり、平成12年の時点で6,956人となっている。世帯数のピークは昭和55年の2,804世帯で、平成12年には2,355世帯と減ってはいるが、人口の減少と比べるとやや緩やかである。人口のピーク時と比べると、近年は核家族化が進みつつあると言えそうである。羅臼町が漁業の町であるということも無関係ではないように思う。



資料：19年度 羅臼町資料編

3.産業

3.1 産業別人口



資料：19 年度 羅臼町資料編

割合でみると、第 1 次産業が最も多い。先述したとおり、その中でも漁業の占める割合が 9 割を超えており、いかに漁業に依存した町であるかがわかる。それと同じように第 3 次産業も多い。これは、世界遺産に登録された知床の観光をなりわいとした観光サービス業が可能であり、それが半分以上を占めているからである。どちらとも、町の立地と風土を活かした、理にかなった産業形態といえるだろう。第二次産業は全くと言っていいほど盛んではないが、製造業の割合が高い。立地企業である「有限会社らうす海洋深層水」の従業員がそのほとんどである。

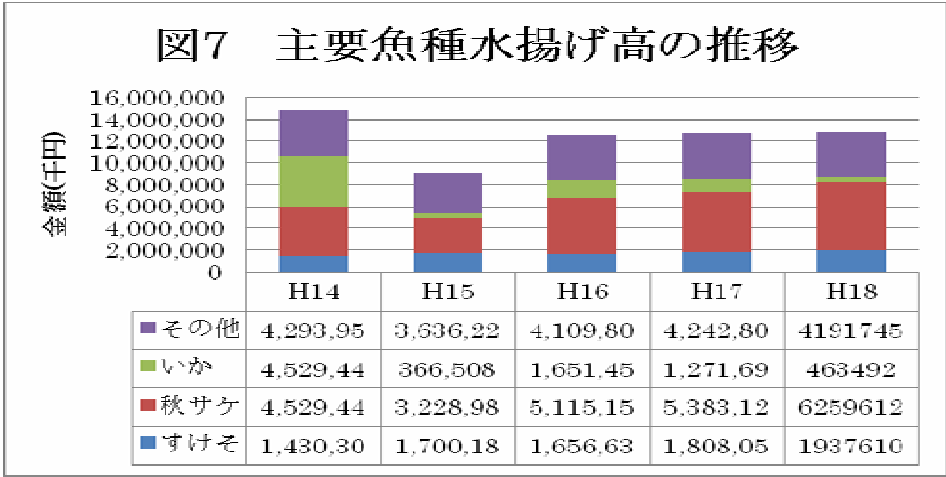
3.2 漁業

2006 年度の漁獲量は上位から、秋サケ・すけそ・ほっけとなっている。昆布は漁獲量は少な

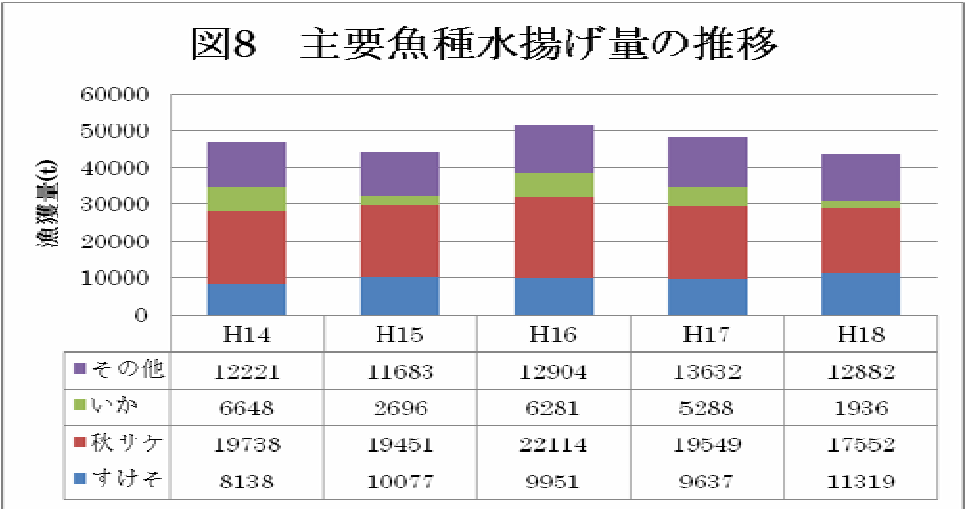
表 1 2006 年度羅臼町漁業生産量(単位:トン/千円)

	漁獲量	金額
すけそ	11319	1937610
秋サケ	17552	6259612
けいじ	6	92239
ほっけ	6546	1220755
めんめ	69	179724
うに	19	124906
たら	2864	763785
かれい	905	184213
いか	1936	463492
おひょう	16	17451
その他	2038	549553
昆布	419	1059119
計	43689	12852459

いが金額は多くなっている。これは、とれる昆布が真昆布と並ぶ最高級品の羅臼昆布であることが理由である。色は茶褐色で濃厚なうまみのダシがとれ、独特のエグミを持つ。北陸の富山が一大消費地。この高級昆布が羅臼の漁業の一番の特徴となっている。北海道は日本でも有数の昆布生産地であることは有名であるが、一般的な知名度では薄味で澄んだ上品なダシがとれ、懐石料理などで重宝される利尻昆布のほうが勝っている感がある。



資料：19 年度 羅臼町資料編

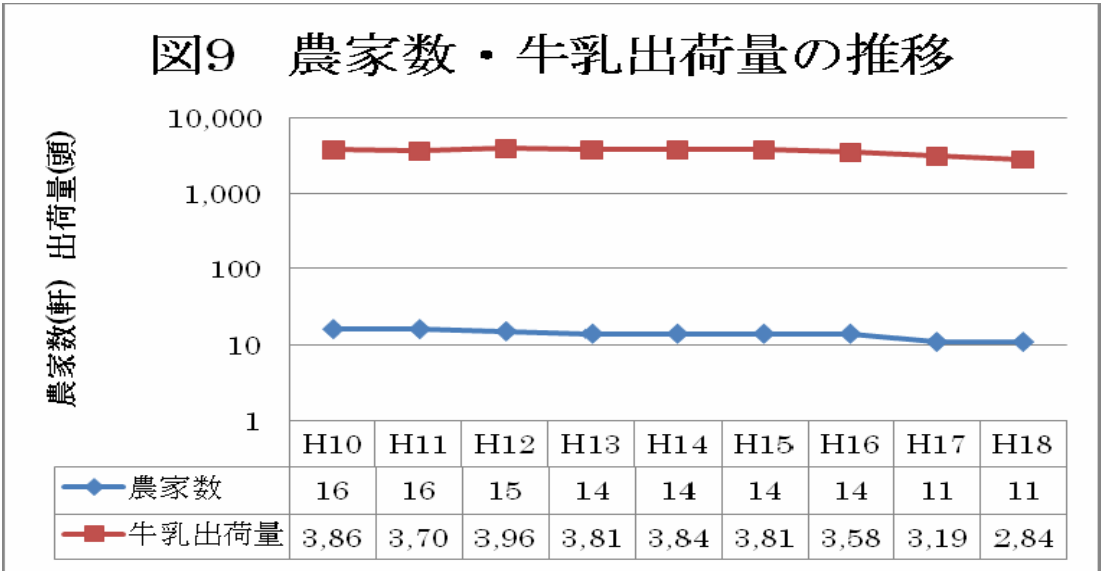


資料：19 年度 羅臼町資料編

漁業は自然を相手にする産業だけに、安定させるのは難しいと思われるが、羅臼町は比較的安定しているように思う。やはり豊かな自然資源の存在はそれだけで価値のあるも

のといえそうだ。特徴としては、水揚げ量が水揚げ高と比例しないというところに漁業の難しさを感じる。

3.3 農業



資料：19年度 羅臼町資料編

先述のとおり、農家数自体が少ない。田畑などでの農作物の栽培よりも、北海道の気候を生かした酪農が主となっている。特に乳牛の飼育が盛んである。少ない農家数はさらに減少しており、当り前ではあるが牛乳の出荷量も減少している。農業に適した土地がない（山林がほとんど）こともあり、仕方のないことなのかもしれない。

4.観光

4.1 世界遺産知床国立公園

北海道の東端にあるオホーツク海に面した知床半島と、その沿岸海域が登録の対象となっている。半島中央部は、千島火山帯が貫き、海岸線は荒く海に削られた地域である。冬には世界で最も南端に接岸する流氷が訪れる。この流氷により大量のプランクトンが知床半島付近にもたらされ、サケなどの豊富な魚介類が生息する。サケは秋に知床の河川を遡上し、

図 10 知床連山



出典：羅臼観光協会 HP

ヒグマやオジロワシなどに捕食される。これらの動物の排泄物および死骸は、植物の栄養素として陸地に還元される。このような、海と陸との食物連鎖を見ることのできる貴重な自然環境が残る点が国際自然保護連合（IUCN）に評価され、2005 年に世界自然遺産の登録物件となった。日本では、自然遺産として 3 件目の登録である。また、海岸線から約 3km 沖まで登録地域となり、日本で初めて海洋を含む自然遺産登録物件となった。

図 11 エゾジカ親子



出典：羅臼町 HP

知床の豊かな自然は、動物を育んでいる。先述のヒグマのほか、エゾジカやキタキツネなども目と鼻の先で確認できる。世界遺産の登録により観光客が増加しているが、身勝手な餌付け行為の防止なども、羅臼町ではアピールをしている。世界遺産の登録とともに生まれた問題に対して、町として義務を果たそうとしているのだ。

図 12 羅臼湖



深い原生林に囲まれた神秘的な湖であり、幻の湖として知られる。周囲約 6 km は知床半島では最も大きな湖である。周辺には大小 5 つの沼があり、高山植物などを見る事が出来る。特に羅臼湖に向かう途中にある三の沼では湖面に映る羅臼岳の山容を楽しむ事が出来る。ヒグマの出没状況によって回れなくなる年もあるなど、いかに自然のただなかであるかがわかる。

出典：羅臼町 HP

4.2 北の国から 2002 遺言

フジテレビのドラマである「北の国から 2002 遺言」の主要な舞台としてロケ地に選ばれた。ロケで使われた建物などが残っており(10 ヶ所ほど)、同シリーズの根強いファンが多く、そのため主要な観光として成り

図 13 北の国からのロケ地



出典：羅臼町 HP

立っている。

4.3 ヒカリゴケ

ヒカリゴケとは絶滅危惧 類に分類されている原始的な苔でロシアなどの冷涼な地に分布し洞窟や岩陰などを好む。その名の通り洞窟などの暗い所では金緑色に光り。わずかな環境変化で枯死してしまうもろい存在で、近年の大気汚染や地球温暖化の影響を大きく受けてその個体数は減少を続けているといわれている。羅臼町でも文化財に指定するなど積極的な保護活動を行っている。

また、ヒカリゴケとは直接的なかわりはないが、武田泰淳の小説「ひかりごけ」の題材であるひかりごけ事件(唯一裁判で裁かれた食人事件、経緯は複雑なので略)の舞台でもある。そのため、その事件に興味を持った観光客もたびたび訪れてくるらしい。

参照 HP

- ・ 羅臼町 HP: <http://www.rausu-town.jp/>

- ・ ウィキペディア

HP: <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%85%E8%87%BC%E7%94%BA>

- ・ 羅臼観光協会 HP: <http://www.rausu-shiretoko.com/>